

福岡座禅道場俳句会十二月句会結果

天 冬晴れの空ごと磨くサツシかな (霊峰) 七点

地 網焼きを割って新婚の如く分け (霊峰) 六点

地 枯葉散りにはかに空の広がれり (宗道) 六点

地 陽だまりに身を寄せ合ふて石路の花 (宗道) 六点

地 地下足袋の男ら囲む暖炉かな (浄淵) 六点

人 山裾を彩り静か冬紅葉 (寶州) 五点

友の死に思わず溜息夕時雨 (寶州) 41

青々と聖夜リースの暖かし (白堂) 1

忙中の閑の縁側室の花 (浄淵) 1

冬の風お山を白くして通る (真光) 1

冬晴れの空ごと磨くサツシかな (霊峰) 7

葉を落とし枯木素顔を見せにけり (宗道)

霜月も早晦日なり今年かな (寶州)

網焼きを割って新婚の如く分け (霊峰) 66

枯葉散りにはかに空の広がれり (宗道) 166

冬落葉ふみしめる音に師の歴史 (令香) 2

ストーブの上に焙りし酒肴 (浄淵) 1

おおまじめ背中をたく北の風 (真光) 6

陽だまりに身を寄せ合ふて石路の花 (宗道) 1

師走入りあつという間の速さかな (無傳)

初霜に去年のメジロか舞い来たり (白堂) 1

病室の掃除婦泣かせや室の花 (浄淵) 1

木枯しに顔向けてゐる仏かな (霊峰) 4

お隣へ越境したまま蔦枯る (宗道) 34

地下足袋の男ら囲む暖炉かな (浄淵) 634

出版の祝いに集ふ年の暮れ (寶州) 6

あさ七時かぶりに届く白い息 (真光) 41

小三治の夜泣鯁鮓に腹が鳴り (霊峰) 41

天平の鐘ずつしりと冬木立 (宗道) 4

山裾を彩り静か冬紅葉 (寶州) 5

百歳の祝いに甘酒供えたり (白堂) 2

いい湯かけんですにかきませたかと師のこだま (令香) 2

寒椿暑さ寒さを気にもせず (無傳) 4

熱爛の徳利の首の細さかな (霊峰) 234

俳句誌の終刊通知師走かな (寶州) 23

壁に手を突き靴脱ぐや十二月 (真光) 3

師走入り今年ベストの寒さかな (無傳) 3

お隣の室の花見て日暮らしぬ (浄淵) 2

欠席便暮れの挙式を伝え来る (白堂) 2

※ 新年第一回一月句会の投句締め切りは、

一月十七日(土)です。

